

果菜類における効率的な天敵利用技術の普及

ねらい

促成イチゴやトマト栽培では、薬剤抵抗性を獲得したハダニ類、コナジラミ類等の防除には多大な労力を要している。このことから、ゴマなどの天敵温存植物を用いた土着天敵タバコカスミカメの利用技術（ゴマまわし）や、天敵資材のカブリダニ類の利用が定着しつつある。また、近年農研機構等では新たにトマトを対象としたタバコカスミカメやイチゴ、ナス等を対象とした天敵保護資材（バンカーシート）の利用技術が開発され、注目されている。

そこで、土着天敵や天敵資材の効果的な利用技術を関係機関と連携し、本県の生産現場への普及を支援する。これにより、過度の農薬使用を防ぐことで薬剤抵抗性の発達を抑制し、防除作業の労力軽減を図るとともに、安全安心かつ持続的で安定的な農業生産の実現を図る。

活動地域・対象

地域：県内全域（徳島市，小松島市，阿南市，阿波市等）

対象：トマト生産者，イチゴ生産者

普及活動の目標

新たな天敵利用技術導入モデル農家等 3戸

- 1 土着天敵タバコカスミカメを活用した防除体系を大玉トマトの産地に普及します。
- 2 カブリダニ類と天敵保護資材の活用を主体とした新たなIPM技術を確立します。

目標に向けた活動概要

- 1 実証展示ほの設置：トマト：徳島市、阿波市各1戸，イチゴ：徳島市1戸，阿波市3戸の展示ほにおける天敵（タバコカスミカメ，カブリダニ類）と害虫（コナジラミ類，ハダニ類）の発生密度を定期的に調査し，効果を分析。
- 2 指導者研修会の開催：各地域の普及指導員・試験研究機関と連携して天敵の利用方法や薬剤体系プログラムを共有するため研修会を開催。
- 3 技術の個別指導：天敵の利用方法，展示ほの定期調査に基づき薬剤使用の選択等を指導。
- 4 成果報告会の開催：JA営農指導員や普及指導員参集のもと，展示ほの実証結果の報告と評価。



ハダニ類



コナジラミ類



バンカーシート設置



指導者研修会



成果報告会

普及活動の成果

1 展示ほにおける実証成果

- ① 大玉トマトの展示ほでは、温存植物であるゴマ、クレオメを植栽し、阿波市施設ナスのクレオメに定着したタバコカスミカメを移動させたところ、増殖したトマトでも定着しました。このことにより、タバココナジラミの発生を抑制できました（図1）。
- ② 雨よけトマトの展示ほでも、上記①と同様の成果が上がりました。
- ③ 本技術の活用により、コナジラミ類等の薬剤使用回数が大幅に削減できました。
- ④ イチゴの展示ほでは、薬剤体系プログラムの実践とミヤコカブリダニに、チリカブリダニを追加放飼すると、現在までナミハダニの発生密度を低く抑えることができた（図2）。



タバコカスミカメ



バンカーシートとミヤコカブリダニ

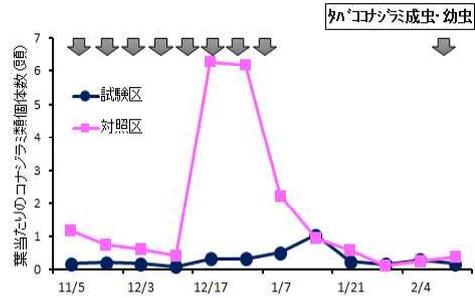


図1 展示ほにおけるタバココナジラミの発生推移

※矢印：コナジラミ類を対象とした薬剤散布

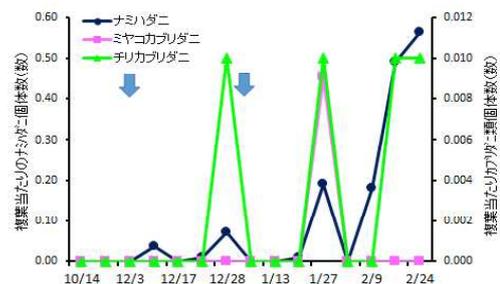


図2 展示ほにおけるナミハダニとカブリダニ類の発生推移

※矢印：カブリダニ放飼

2 新技術導入モデル農家の育成

新たにトマトを対象とした土着天敵タバコカスミカメの活用及びいちご対象とした天敵保護資材（バンカーシート）の利用したIPM技術を実践する生産者が6戸（トマト：2戸，イチゴ：4戸）となりました。



今後の発展方向

大玉トマトでは展示ほにおける効果が良好であったことから、展示農家等では本技術の定着、モデルとしての他農家等への波及が見込まれます。また、指導者研修会を開催し、天敵利用技術について情報提供を行っていきます。

関係者からの声

- タバコカスミカメの利用は、コナジラミ類に対する防除効果が高く、農薬の使用回数が大幅に減った。ただ、農薬の選択に戸惑う時がある（生産者）。
- ミヤコカブリダニを放飼するまでにハダニ密度をゼロにできれば、同天敵の効果が十分に発揮できる（JA担当者、農薬メーカー）。

高度技術支援課 連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel：088-674-1922